

Vol.32
2008 夏秋合併号



Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

アジア太平洋観光交流センター (APTEC) ニュースレター

TOURISM 21

◎事務局長あいさつ … p2

◎世界観光機関 (UNWTO) 地域委員会と大都市観光国際会議を兵庫県神戸市にて開催 … p4

◎平成20年度理事会・評議員会の開催 … p8

◎長浜観光交流促進ワークショップ「まちの未来、観光の未来」… p10

◎インド・アッサム州でのセミナー開催について … p12

◎UNWTOニュース … p14

◎賛助会員名簿 … p15

着任の御挨拶

財団法人アジア太平洋観光交流センター (APTEC) 事務局長

飯 嶋 康 弘

国際連合・世界観光機関 (UNWTO)
アジア太平洋センター副代表



このたび、7月4日付けで当財団 (APTEC) の事務局長に着任し、世界観光機関 (UNWTO) アジア太平洋センター副代表に就任致しました。関係の皆様方には、日頃より当センターに対し御理解・御支援を賜っておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。また、本年6月、兵庫県・神戸市に於いて、大都市観光国際会議とUNWTO地域委員会が、皆様の御協力のもと盛大かつ成功裡に行われましたことに、重ねて御礼申し上げます。

「郷に入れば郷に従う」「相手を尊重すること」が観光交流における重要なキーワード

「郷に入れば郷に従う」という諺がありますが、観光においてはこれが案外重要なキーワードなのではないかと思います。観光客として日本各地や諸外国を訪れた時には、その地域や国の歴史、伝統・文化そして習慣などを良く理解し、更に重んじることが重要であり、この諺は、単に処世術としてだけでなく、観光客にとって、そして特に海外との観光交流を進めていく上ではとても重要なことだと感じています。

私は縁あって1997年に在中国日本大使館に赴任したのですが、それまで中国には行ったこともなく、当時の私は中国のことを殆んど何も知らず、ただ自転車が多い国というイメージだけはとても強く持っていました。そこで、赴任した時にまず考えたことは、中国を知るにはまずは中国で自転車に乗ってみよう、ということでした。前任者が帰国して自転車を引き継いだその日の朝、私は、洪水

のように自転車通勤ラッシュで溢れかえった建国門外大通りを天安門広場に向け、中国人民と共に自転車を走らせました。車生活に慣れていた私にとっては、何か不思議な気持ちが湧いてくるとともに懐かしい感じがして、とても嬉しい気持ちになりました。ただ中国人と同じように行動し、自転車を一緒に走らせただけでしたが、これも相手国の文化・習慣を知る一つの手段であり、北京の初夏の爽やかな風を肌で感じ、私の中ではそれでも少しは中国という国を理解できたような気がしましたし、大使館でのその後の外交活動を行う上で、最初のこの感覚が役に立ったのではないかと考えています。

一方、海外との交流を進めていく上で一番大切なことは何か、という問い掛けに対し、私は常々「相手国を尊重すること」と答えています。日本では今、官民挙げてビジット・ジャパン・キャンペーン (VJC) に取り組み、国策として外国人観光客の誘致を図っていますが、その際にも最も重要なことは「相手国を尊重すること」だと思います。その気持ちがあれば、自ずから相手国の文化や習慣等を良く学ぶでしょうから、中国や韓国が目上の人に対する礼儀を日本以上に重んじることや、中国では白と黒の組み合わせを忌み嫌うので、日本では一般的な白地に黒字の横断幕は避けるべき、といったことも知っておくことができます。また例えば、旅行の楽しみの一つである食事についても、中国や韓国からの観光客に対しては、冷たいお弁当は避けること、料理の種類と量を多

めにして見た目を華やかにすること (バイキングも可)、体に良い材料を使っていることを積極的にPRすることなどは受け入れる側の基本です。勿論十人十色なのでそれが絶対に正しいという訳ではありませんが、相手 (外国からのお客さん) を喜ばせたい、という「おもてなし」の心、ホスピタリティーも「相手国を尊重すること」から始まるのではないかと思います。

私の中国勤務時代には、日本からのお客さんを現地でアテンドする機会がしばしばありましたが、赴任して間もない頃、ホテルのロビーなどに「賓至如帰」と書かれてあるのを良く目にしました。意味を聞くと「我が家に帰ったように寛いだ気分になれる」ということでした。当時の中国のホテルは、施設面、サービス面とも到底満足できるようなレベルにはありませんでしたが、この「おもてなし」の精神は、その後の中国滞在中に十分に知ることができました。中国人は面子を殊のほか大事にしますが、これも相手を尊重する姿勢の表れであり、この「相手を尊重する」精神があるからこそ中国は外国人の「おもてなし」も上手いのだと思います。

「郷に入れば郷に従う」の諺を持ち出し、外国人観光客に対し、ここは日本なのだから日本のやり方に従うべき、と言う人がいるかもしれませんが、日本のありのままの姿を見たい、体験したいという外国人も多いでしょうから、頭から否定する訳ではありませんが、その際に重要なことも「相手を尊重する」ことであり、その思い・姿勢が欠けているなら、

単なる諺の悪用に過ぎません。相手を尊重することから人間関係は始まりますが、海外との交流では、この点をより強く意識することが必要だと思います。

APTECとUNWTO、そして観光外交

当財団（APTEC）は、世界観光機関（UNWTO）アジア太平洋センターの支援を業務の柱としています。UNWTOアジア太平洋センターは、国連の専門機関であるUNWTO（本部はマドリッド。154ヶ国が加盟）が成長著しいアジア太平洋地域に出先機関を設置することを決定し、インドネシア及びスリランカとの激しい誘致合戦を経てUNWTO総会で日本誘致が決定されたことを受け、1995年に大阪に設置されたものです。

UNWTOは、国連が策定したミレニアム開発目標の一つである「貧困撲滅」を、持続可能な観光開発により達成しようとしています。貧困撲滅は、その地域の平和と安定に欠かせません。

『観光外交』という言葉を担当財団の本田勇一郎理事長（（兼）UNWTOアジア太平洋センター代表）が好んで使いますが、日本人観光客が途上国を沢山訪れることにより、その国のホテル・レストランや土産物店に、或いはチップとしてそこで働いている従業員に、観光客が直接金銭を手渡すことができるという点で、こうした途上国への草の根的な観光交流の促進は、政府開発援助（ODA）とも異なり、場合によってはより効率的な、効果のある国際貢献になると考えられます。

日本からは毎年1700万人以上の観光客が海外に出かけているという実績があることから、今後は更に、海外旅行離れが進んでいる若年層世代や、大量退職が見込まれる団塊世代などへの働きかけを行うことにより、途上国への日本人観光客を増やし、観光外交による国際貢献を進めていくべきだと考えます。このため、当財団ではUNWTOと連携して、ST—EP（Sustainable Tourism—Eliminating Poverty：「持続可能

な観光」を通じた貧困の軽減）事業にも取り組んでおり、途上国が日本人（外国人）観光客を沢山受け入れられるようにするための観光開発の支援を進めています。

国際社会における日本の立場を考えた時、観光分野だけでなく、政治・経済を始めあらゆる面で「アジアの中の日本」がベースとなります。そのためにも、特にアジアの国々との、双方向での草の根的な観光交流の促進が何よりも重要です。全世界における国際観光客数も現在は9億人程度ですが、2020年には16億人近くにも達すると予測され、その中でもアジア太平洋地域の伸びが極めて大きくなると期待されていることから、当財団及びUNWTOアジア太平洋センターの役割も益々大きくなるものと、責任の重さを感じております。

観光は21世紀の国づくりの柱、真の観光立国を目指して

本年10月1日には国土交通省に「観光庁」が設置されます。国の政府組織として観光行政の司令塔が誕生することになります。戦後貿易立国を旗印にして高度経済成長を実現した日本が、「観光立国推進基本法」という法律も制定し、今度は観光立国を国策としたのです。観光の重要性は益々強く認識され、観光担当課に加えて新たに観光部や観光局を設置する自治体も増えてきており、観光分野の人材を育成する上で重要な大学教育の場においても、観光学部や観光学科を新設するところが急増しております。

このように観光の取り組みが強化されているのは、国内観光消費による生産波及効果が約52.9兆円、雇用誘発効果が約442万人との推計があるように観光産業の裾野が広いからであり、また、人口減少時代にあつて、定住人口1人減少による消費額の低下を外国人観光客7人の誘致（或いは国内からの宿泊客22人の誘致）で補えるというデータもあるように、観光による交流人口の拡大が地域経済・地域活性化に大変効果があるからです。また、諸外国との関係でも、双方向での観光交流の促進

が、国際相互理解の増進に役立ちます。更に、観光交流を促進するためには、諸外国についてだけでなく、日本の、そして自分が住んでいる地域の歴史や伝統・文化などを知る必要があります。自国や故郷の良さを再認識することにも繋がることから、観光は教育の視点からも大変重要な分野であると考えられています。

観光は、「平和」を象徴するものであるとともに、有限な資源に対し、観光は無限であることから、21世紀の世界が目指すべき課題である「持続可能な発展」に大きく寄与するものと思われます。観光交流の重要性が日本でも強く認識されるようになったことは、時代の流れでもあると言えるでしょう。

ただ、その一方で、観光分野も様々な課題を抱えています。特に、観光振興と環境の問題、即ち、開発による自然環境破壊や、観光客急増による道路渋滞やゴミの散乱等生活環境破壊の問題、或いは、近年の異常気象や災害・伝染病等リスクマネジメントの問題などは重要な課題です。更に、観光戦略を立案・検証するための各種観光統計の整備を図らなければならないなどの問題もあります。当財団では、UNWTOと連携して、重要なテーマについての国際会議を開催したり、世界観光統計の分析や情報提供を行うなど、これらの観光分野の課題解決に貢献できるような取り組みを積極的に進めております。

当財団では、更に、観光交流による地域の国際化や、観光交流に関する意識の浸透を図るための取り組みなども行っていますが、今後益々重要となってくる観光の分野で、引き続き各自自治体や経済界、大学等と連携し、海外との観光交流を通じた日本各地の国際化や、双方向の観光交流を通じたアジア太平洋地域の平和と発展を目指して、職員一同今後とも積極的に業務に取り組んで参りたいと考えております。関係の皆様方には、引き続き御理解・御支援を賜りたく、改めてお願いを申し上げ、着任の御挨拶とさせていただきます。

■世界観光機関（UNWTO）地域委員会と 大都市観光国際会議を兵庫県神戸市にて開催



開会式の様子

平成20年6月9日（月）～11日（水）、当財団が支援するUNWTOと国土交通省が共催するUNWTO大都市観光国際会議、並びにUNWTOのアジア・太平洋地域委員会が神戸国際会議場、神戸ポートピアホテルで開催された。当財団はUNWTOアジア太平洋センターとして、本田代表以下職員全員が会議出席、運営に取り組んだ。

まず初日9日に開催されたUNWTO大都市観光国際会議は、日本で初めての大都市観光問題を取り上げる会議として開催告知当初から反響が大きく、参加者は600名を数

えた。また、海外の参加者は20カ国・地域から70名を数えた。

UNWTOアジア・太平洋地域委員会開会式を兼ねた当会議開会式では、冬柴国土交通大臣・観光立国担当大臣、フランジアリUNWTO事務局長、井戸兵庫県知事、矢田神戸市長が開会挨拶をおこなった。

開会式の後、講演の部に移った。最初にUNWTOコンサルタント、グレッグ・リチャーズ氏が大都市観光を考える際の重要な要素とその相互の関連性や、これまでなされてきた分析とその結果得られた結論などを紹介しながら、世界の大都市観光を

概観する基調講演をおこなった。

この後、午前の部「セッション1 世界における大都市観光について」において、海外から3氏が講演をおこなった。

スペイン・マドリード市国際化戦略・実行本部長 イグナシオ・ニーニョ・ペレス氏は欧州でロンドン、パリに次ぐ大都市となったマドリードの国際化推進計画を説明し、具体的な運営機関を紹介した。更に2005年から行っている「日本計画（プラン・ハボン）」の成果にも言及した。

次に、タイ観光スポーツ省次官



冬柴国土交通大臣



フランジアリUNWTO事務局長



井戸兵庫県知事



矢田神戸市長

サシタラ・ピチャイチャンナロング女史が、いまや東アジアの経済、交通の十字路となっているバンコク市の観光政策について講演をおこなった。女史はバンコク新空港開港効果、

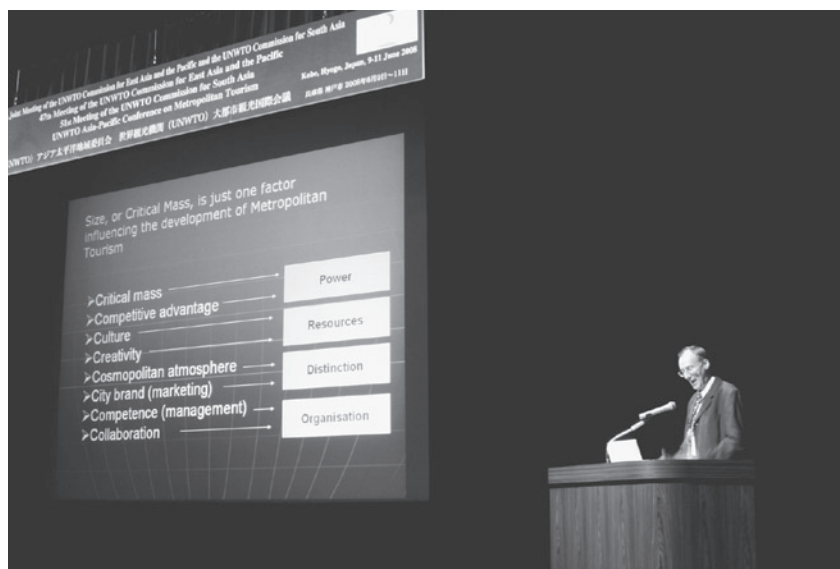
陸上・水上交通計画、都市環境に配慮した省エネ制度導入や歴史的建造物の改装に言及した。更に2015年までに予定されているアセアン内の査証撤廃効果についても触れた。

インド観光省部長デベシュ・チャトルベディ氏は、多様で独自性のあるニューデリーの魅力を紹介した。ニューデリーは3つの世界遺産を含む1200の記念碑がある。2010年に開催される英連邦競技会に向けて、空港、地下鉄拡張を進めていること、主な遺跡のイルミネーション、工芸品販売促進などを着々と進めていることを説明し、環境に配慮しながら、観光促進で得られる経済利益は公平に再配分するインド政府の考えを伝えた。

昼食をはさんでの午後は「セッション2 日本における大都市観光について」と題し、3氏が講演をおこなった。

神戸市国際文化観光局長・観光監の大森伸一氏が、阪神・淡路大震災から如何に神戸が復興を遂げたかを語ったが、折からミャンマーの災害、中国・四川省の大地震の後でもあり、都市防災の観点からも同氏の講演は注目をあびた。また神戸ブランドの創造や観光商品開発の振興を含む今後の計画には、官民の協力はもとより、広域連携も必要であるとした。

東京都副知事 猪瀬直樹氏は1964年開催のオリンピックとは異なった考えに基づいて、東京都が再び2016年オリンピックに立候補していることや、広大な緑化計画、それによって得られる新鮮な空気の都心への導入など今後の都市ビジョンについて述べた。また、東京は今や食文化のグローバルセンターになっ



グレッグ・リチャーズUNWTOコンサルタント



サシタラ タイスポーツ観光省次官



チャトルベディ インド観光省部長

ていること、江戸、現代文化の融合を図っていることなど都市観光としての東京の魅力についても語った。最後に長期戦略として、他都市のモデルになるような都市づくりをしていくと締めくくった。

世界的建築家である安藤忠雄氏は世界の都市景観、建築物について豊富なスライドを使用しながら特別講演をおこなった。世界の都市を概観する中で、同氏は日本の都市はパリ、ロンドン、ベニス等欧州諸都市の景観・環境を維持、改善しているやり方を参考にするべきだと述べた。これからの日本は、現存するものを如何に活用していくか考えることが重要であるとした。また、淡路島の植樹による自然再生とその土砂による空港造成にもふれた。

講演の後、グレッグ・リチャーズ氏の司会のもと、猪瀬副知事、安藤氏を除く各講演者とUNWTO計画調整局長エウヘニオ・ユニス氏、アジア・太平洋代表部代表ス・ジン氏が加わり、フロアからの質問も受け活発なパネルディスカッションが行われた。

各講演とパネルの結論として、リチャーズ氏は諸都市が観光マーケットの中で選好されるようになるには、何よりも明確な戦略と強いリーダーシップが、利害関係を調整して



猪瀬東京都副知事



安藤忠雄氏



パネルディスカッション

いく上で必要であり、その戦略を支持する商品の開発、多様性の確保もまた、文化、遺産の保護とともに要求されると述べた。21世紀、アジアの諸都市は大都市観光発展の利益を享受するのに、確かな足取りで前進しているとした。

そして最後に、UNWTO事務局次長のタレブ・リファイ氏が閉会挨拶をおこなった。

翌6月10日(火)終日～11日(水)午前中までは、UNWTO第20回東アジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会、そしてそれぞれ両地域の委員会がポートピアホテルで終日



地域委員会での本田理事長の活動報告



地域委員会会場風景

開催された。UNWTO各国・地域代表等約60名が参加した。また本田UNWTOアジア太平洋センター代表も議長団に加わり、センターの活動報告をおこなった。合同地域委員会では各国の活動報告の他に、アジア・太平洋地域における観光労働市場実態調査などが報告された。同調査は次回地域委員会の場などで引き続き報告される。

そして最終日の11日（水）午後

からは、各国地域代表等を対象に、神戸市が主体となりスタディツアーが実施された。灘の酒造、人と防災未来センター、姫路城などを訪問し、最後は六甲ビューパレスで夜景を見ながらの夕食会をおこなった。参加者からは、極めて印象深いツアーで

あったとの感謝の言葉が寄せられた。

このように、UNWTO大都市観光会議、地域委員会とも兵庫県および神戸市をはじめとする関係各位のご支援、ご協力を得てつつがなく、成功裡に終了した。



姫路城にて

■平成20年度理事会・評議員会の開催

平成20年5月29日（木）、ホテルグランヴィア大阪において当財団の平成20年度第一回理事会・評議員会を開催した。午前中に開催された評議員会では、本田勇一郎理事長の挨拶、来賓の国土交通省近畿運輸局 吉田晶子企画観光部長のご挨拶の後、平成19年度事業報告及び決算報告、平成20年度事業計画及び収支予算書、理事・監事の選任の議案について審議を頂き、事務局提案のすべての議案について承認を頂いた。

午後には開催された理事会では、野村明雄会長のご挨拶、来賓の国土交通省近畿運輸局 各務正人局長のご挨拶の後、評議員会と同じく平成19年度事業報告及び決算報告、平成20年度事業計画及び収支予算書について審議を頂き、また評議員の選出、会長・副会長・理事長の選任の議案について審議を頂き、事務局提案のすべての議案について承認を頂いた。

当財団では、平成19年度も引き続き、世界観光機関（UNWTO）が推進している観光を通じた貧困の軽減の趣旨に沿った事業を実施するとともに、日本政府が推進しているVJC関連事業についても全力で取り組んだこと、平成20年度においても、これら2つの事業に取り組むとともに、従来の事業も引き続き実施できるよう努力を行うことを報告した。



野村明雄会長のご挨拶



各務正人近畿運輸局長のご挨拶

▶平成19年度事業報告

概要

当財団では、平成19年度においても 1.「世界観光機関（UNWTO）アジア太平洋センターの支援事業」 2.「観光交流による地域国際化の促進事業」 3.「観光交流に関する意識の浸透事業」の3つの柱を中心に事業を積極的に実施した。

実施事業内容

第1：世界観光機関（UNWTO）アジア太平洋センターの支援事業

1. モンゴル観光交流促進シンポジウムの開催

2007年6月9日（土）、モンゴル国・ウランバートル市国会議事堂内で、国土交通省、モンゴル道路交通観光省並びに世界観光機関（UNWTO）と共催で開催した。2007年は、日本とモンゴル両国の外交関係樹立35周年にあたり、本シンポジウムは両国による「モンゴルにおける日本年」公式事業となった。

シンポジウムには、日本側から関西経済界・自治体、観光関係者ら約120名、モンゴル側は政府、観光、マスコミ関係者ら約260名の計380名が出席した。

本事業は観光を国家の産業振興の大きな柱に据えるモンゴル国の期待に沿うものであり、観光機関が推進する観光開発を通じて貧困削減「ST-EP」プロジェクトの一環としても極めて意義深いものとなった。

2. UNWTO関連国際会議等への参加

UNWTOが実施する観光関連会議又はセミナー等に積極的に参加した。

(1) UNWTOメトロポリタンツーリズム（大都市観光）釜山会議への参加

2007年9月11日（火）、韓国・釜山市において、UNWTOと韓国釜山市などが主催したメトロポリタンツーリズム釜山会議が開催された。開会式には地元韓国のツーリズム関係者など約250名を数えた。

(2) UNWTOフランジア事務局長とアジア太平洋地域代表部 スズン代表の来日及び講演

UNWTOフランジア事務局長と同アジア太平洋地域代表部スズン代表の両氏は、2007年9月中旬、「JATA国際観光会議2007」並びに「第9回世界華商大会内プログラム インベスト・ジャパン/ビジット・ジャパン共同シンポジウム」に各々招聘され、基調講演を行った。

当財団は両名の講演実現に向け、国土交通省、JATAなど国内関係者との事前調整を行った。また、フランジア事務局長の来日に合わせ、UNWTOと立命館アジア太平洋大学（APU）の相互協力覚書の締結式を開催した。

(3) UNWTO第17回総会への参加

UNWTO第17回総会が2007年11月23日（金）から29日（木）までの間、南米コロンビア・カルタヘナで開催された。UNWTO総会と同機関の最高意思決定機関であり、2年に1回、世界各地の持ち回りで開催されている（我が国は2001年に韓国と共同開催）。

今次総会とは同23日から26日まで各国事務レベル会合、27日から29日までは、各国首席代表会合という二部構成で行われた。当財団からはUNWTOアジア太平洋センター代表を兼ねる本田理事長他2名が参加、また日本政府からは国交省荒木観光経済課長、外務省から3名が日本代表団として参加した。総会全体ではUNWTO加盟各国等より1000名を超える参加者があった。

今次総会の最後に、次回第18回総会を2009年にカザフスタンで開催することが決定された。

第2：観光交流による地域国際化の促進事業

1. ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）受託事業

(1)「第1回観光経済国際シンポジウム」の開催

観光業の経済効果を数値化することで、国や地域への貢献度を明確化し、的確な政策立案やマーケティングにつなげようと、2007年10月15日（月）に「第1回観光経済国際シンポジウム」がホテルグランヴィア和歌山において開催された。

本シンポジウムは、国土交通省と世界観光機関（UNWTO）の主催の下、当財団が企画運営し、和歌山大学から協力、和歌山県、（社）日本経済団体連合会などから後援を得て実施した。当日は、地元和歌山県、和歌山市をはじめ全国各地から自治体、観光業界及び企業関係者、大学など約300名が参加した。

(2)「関空二期供用開始に伴う訪日台湾プロモーション事業」の実施

関西国際空港の第二滑走路が2007年8月2日に供用開始されたのを受け、関西への訪日台湾旅行者の拡大を図るため、関西国際空港を利用した台湾からの旅行促進プロモーションを実施することとした。本事業は国土交通省が主催し、当財団が企画運営を担当した。

1. 関西観光情報台湾現地説明会の開催
開催時期：2007年12月6日（木）
開催場所：高雄国賓大飯店（台湾高雄市）
2. 新聞広告宣伝事業
2008年2月下旬及び3月上旬、台湾大手新聞に関西地区の観光情報を訴える新聞広告を計2回行った。
- (3)「日本の木造世界遺産観光フォーラム インシドニー」の開催

2008年2月22日、オーストラリア・シドニー市内のホテルで開催された本事業は、国土交通省と日本「木造の世界遺産」市町村連絡協議会（奈良市、姫路市、斑鳩町など3市町・1広域連合）の主催の下、当財団が企画運営を担当した。フォーラムには、オーストラリアのメディア、旅行エージェンツをはじめ、日本の文化に関心の深いオーストラリア人一般市民や日系団体のメンバーなど約430人が参加した。

本事業は、日本の木造世界遺産と欧米の石造建造物の比較に焦点をあて、木造世界遺産の背景にある我が国の「木の文化」の魅力をアピールし、訪日外国人増加を目指すものであり、一昨年度のフランス・パリ、昨年度の米国・ロサンゼルスに続くものである。フォーラムに先立ち、2007年11月下旬に5名のオーストラリア人メディアを関西の木造世界遺産視察に招聘した。

一行は11月26日から12月2日までの7日間にわたり、姫路市の姫路城を皮切りに、奈良県吉野町の金峯山寺蔵王堂、斑鳩町の法隆寺、奈良市の東大寺大仏殿、春日大社、宇治市の平等院、京都市清水寺などを順次視察した。

(4)「源氏物語フォーラム インパリ」ー日本の古典文学を生かした外客誘致促進ーの開催

2008年3月11日、フランス・パリ日本文化会館で開催された本事業は、国土交通省が主催し、当財団が企画運営を担当した。

2008年は日本古典文学の名作である源氏物語が誕生して千年にあたり、フランスにおいても昨年フランス語版源氏物語が出版されるなど関心が向けられている。

2007年2月に当財団では、国土交通省が主催した「日本の古典文学を活用した外国人観光客誘致」を検討するパネルディスカッション（京都府宇治市）を企画運営し、日本の古典文学が観光素材として訪問動機になり得るとされた。今般フランス・パリで開催された本フォーラムは、元々日本の伝統文化に関心が高いフランスにおいて、更なる訪日旅行促進を目指すものであった。

平成19年度収支計算書

自 平成19年4月1日
至 平成20年3月31日

（単位：円）

科 目	決算額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
基本財産運用収入	728,311
基本財産利息収入	99,759
有価証券利息収入	628,552
会費収入	34,446,000
賛助会員会費収入	34,446,000
補助金等収入	61,298,463
地方公共団体助成金収入	42,898,463
民間補助金等収入	18,400,000
VJC等関連事業受託費収入	60,854,644
雑収入	86,373
受取利息	86,373
繰越事業引当金収入	13,003,482
事業活動収入計	170,417,273
2. 事業活動支出	
事業費支出	112,885,975
(1) 人件費支出	20,229,916
(2) 国際会議等開催事業支出	2,014,149
(3) コンベンション振興支援支出	0
(4) 観光交流促進事業支出	1,834,615
(5) 自治体等観光交流促進事業支出	2,135,525
(6) 観光学術研究振興事業支出	4,119,268
(7) 世界観光統計・情報提供等事業費支出	3,722,340
(8) 機関誌等出版事業費支出	1,767,720
(9) VJC等関連事業費支出	50,609,822
(10) 18年度繰越事業支出	9,212,340
(11) 19年度繰越事業繰出支出	17,240,280
管理費	56,142,708
給付と厚生費	26,063,681
福利厚生費	1,907,104
旅費	2,944,380
事務賃借料	5,162,301
等	20,065,242
事業活動支出計	169,028,683
事業活動収支差額	1,388,590
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	
特定資産取崩収入	2,534,664
投資活動収入計	2,534,664
2. 投資活動支出	
基本財産取得支出	48,001
特定資産取得支出	1,300,000
投資活動支出計	1,348,001
投資活動収支差額	1,186,663
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
借入金収入	25,000,000
財務活動収入計	25,000,000
2. 財務活動支出	
借入金返済支出	20,000,000
財務活動支出計	20,000,000
財務活動収支差額	5,000,000
IV 予備費支出	
当期収支差額	7,575,253
前期繰越収支差額	33,492,238
次期繰越収支差額	41,067,491

(5)「第1回産業観光国際セミナー」を開催

産業観光による地域振興とアジア地域を中心とする訪日外国人旅行者を如何に拡大していくかを議論するため、2008年3月25日、「第1回産業観光国際セミナー」が愛知県名古屋市内にある産業技術記念館で開催された。

本セミナーは、国土交通省と世界観光機関（UNWTO）が共催し、当財団が企画運営を担当した。当日は、地元愛知県、名古屋市内をはじめ全国各地から自治体、観光業界及び企業関係者、大学など280名の参加があった。

翌26日には、名古屋近郊の産業観光施設の実情を把握することを目的としたテクニカルツアーが実施された。